



生き生きとした自分を見つけるための実用生活誌

# はじまりのページ

Shukokai-Magazine The page of beginning

2017 Summer NO.40

第1特集

—がんのない未来を目指して知識を伝える—  
「免疫療法アドバイザー」誕生

ダイジェスト版



第2特集

“ハスミワクチン”はじまりの地から—  
『BSL-48 珠光会 Clinic』が開院

6 Special Report

知ることは“力”になる—

浜松市で第1回『交流・勉強会』が開催

9 連載コミック

第35回 ほのぼのJiJi・BaBa 松&梅

Interview

10 食養生のすすめ 免疫力を高め、健康長寿をめざす

13 珠光会通信



第1特集

—がんのない未来を目指して知識を伝える—  
**「免疫療法アドバイザー」**  
**誕生**

臨床開始から60年、  
 延べ15万人以上の方に愛用されてきた「ハスミワクチン」。  
 次世代型免疫療法として、  
 第Ⅳ期のがん治療に着々と成果をあげる「HITV療法」——。  
 益々完成の度を増す珠光会の医療を津々浦々へお届けするため、  
 この春、珠光会は画期的な取り組みを開始しました。  
 その名を「免疫療法アドバイザー」。  
 今回の特集はアドバイザーに就任された方々のお便りと共に、  
 その全容をお伝えします。

「生物学的な不運」を司る因子

「がんの死亡者が増え続けているのは、先進国では日本だけ」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？ 耳を疑うフレーズではありませんが、表1（4頁）をご覧ください。これは先進4カ国の「がんの粗死亡率（国全体のがん死亡数を住民数で割った値）」を示したものです。見ての通り、我が国を除く3カ国では、1990年頃をピークに減少に転じているにもかかわらず、日本では増加傾向に歯止めがかかっていないのです。

「がん死は「がん化」の延長線上にあることですので、最初に考えねばならないのは、なぜ日本人はがんに陥るのか」ということです。主な原因は、「検診率の低さ」「高齢化」「生活環境の悪化」の3つではないでしょうか？

蓮見先生が解説するように、まず、がん検診率の国際比較（2013年 OECD Health Data）を見ると、子宮頸がん検診受診率は、米国では85・0%なのに、日本では37・7%。マンモグラフィーの受診率はオランダが82・1%あるのに対し、日本は36・4%。他の先進国と比較すると、大変低い数字になっています。

「検診率の低さは日本人一人ひとりの自覚によって、かなり改善されると思いますが、問題

免疫療法  
 アドバイザーからの  
 message 1

間違った選択をしないために、  
 正しい知識を身に着ける

東京都 山本葉子さん（仮名）

私自身は未病の予防としてハスミワクチンを使っていますが、父が膀胱がんになったとき、ハスミワクチンに助けていただきました。腎臓、膀胱、尿管にあった腫瘍が、3か月で消えてしまったのです。

今回「免疫療法アドバイザー」を務めさせていただくにあたり、責任の重大さを感じています。今までは身近にいる人が、がんでお困りの場合、その人にとって免疫療法が最善だという判断によって、ハスミワクチンなどを紹介してきました。

しかし、「免疫療法アドバイザー」となると紹介の範囲が広がりますので、今後は免疫についてはもちろん、治療法などについても造詣を深めていきたいと考えています。一番大切なことは、説明した相手に納得して治療を受けていただくこと。納得してもらうためには、話をする方にも、知識が必要ですから——。

数ある治療法のなかからどんな治療法を選択するのか……決めるのは自分自身です。間違った選択をしないためには、正しい知識を身に着けることが大切。「免疫療法アドバイザー」が、その手助けになれば嬉しいのです。



は「高齢化」と「生活環境の悪化」です。この両者に共通するキーワードは「遺伝子」——。

そもそも細胞のがん化は遺伝子のダメージが蓄積されることによって誘発されます。この遺伝子のダメージを招くのが、喫煙などの外的要因に食事・運動などの内的要因を加えた「生活環境」、そして、それを蓄積させるのが加齢です。つまり、「高齢化」が進み、ダメージの蓄積が増えるほど、がんになるリスクも高まるわけです。

とはいえ、同等のリスクでも、実際にがんを発症する人とならない人がいることも事実です。この差について、最近（2015年）米国の科学誌『サイエンス』に興味深い論文が掲載されました。——がんの原因の大半は遺伝子などの問題ではなく、「生物学的な不運」による公算の方が高い……というのです。米国ジョーンズ・ホプキンス大学の数学者と遺伝学者の共同研究で、これまで発表されてきたがん統計をもとに、生涯における幹細胞の分裂とがんリスクとの相関関係から導き出した結論だそうです。

もしこの論文が正しいとしたら、彼らのいう「生物学的な不運」を司る因子とはなんなのでしょう？ 私はそのそが「免疫」だと思おうのです」（蓮見先生）

がんになるかならないか……。天秤の差

免疫療法  
 アドバイザーからの  
 message 2

長野県庁で  
 蓮見先生の講演会を開催

長野県 川上武さん（仮名）

私と「ハスミワクチン」の出会いは、約15年前——。特に病気ではなかったのですが、知り合いから「健康増進にとっても効果的なワクチンがある」という情報を得て、珠光会診療所に赴いたのです。蓮見賢一郎先生からいただいた「体の内側から若返りますよ」という言葉を励みに、以来ハスミワクチンを使い続けています。現在75歳ですが体調はとて良好です。

私の知人複数名ががんになり、それぞれ余命を宣告されたことがあります。ハスミワクチンのおかげで、そのうちの何名かは見事に回復し、現在も仕事を続けています。

2013年「長野県議会がん征圧議員連盟長」から、長野県庁で蓮見先生の講演をお願いしたいという要請があり、同年3月に実施しました。以降、長野県内で計3回、蓮見先生の講演会を開催しました。

私の思いは家族や、知人の「健康を守りたい」という一点です。そうした思いが少しずつ広がり、やがて多くの人の幸福につながれば本望です。

配を免疫が握っているなら、がんにならないためには免疫力を上げることが最良の方法。さらに免疫力を高めれば治療も可能——という珠光会の原点を、科学のさまざまな領域が語り始めているわけです。珠光会の「免疫療法アドバイザー」プロジェクトが立ち上がった背景には、そうした現状、すなわち、免疫という概念がさまざまなパラダイムで、一層重要性を帯びてきた状況が反映されているのです。

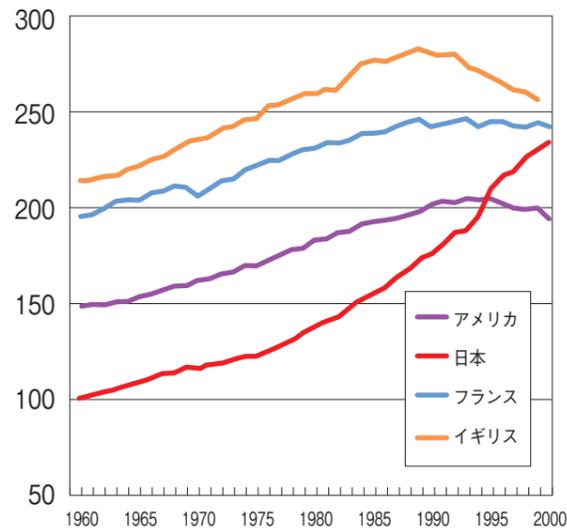
**免疫療法と「がん」で悩む人をつなぐ架け橋**

「がんの免疫療法」という言葉は、すでに耳慣れたものかもしれません。しかし、免疫の基礎や療法のメカニズムまでご存知の方は少なく、それがもたらす治療選びを誤ってしまうケースも見受けられます。

もし、免疫療法の知識を持ち合わせていれば、助かったかもしれない命が助からなかった……。そうした悲しい実態を解消するためには確かな情報、正しい知識をきちんと伝えてくださる人が必要なのです」(蓮見先生)

現在、情報収集にはインターネットが主流ですが、ネットは双方向のメディア

表 1 国別に見たがんの粗死亡率



として発達したので、コンテンツのルールは基本的に個人任せ。その分、無責任な情報も少なくありません。そうした時代だからこそ、もっとも確かで効果的な情報伝達手段は、実際に顔と顔を突き合わせての「パーソナルコミュニケーション」という考え方が「免疫療法アドバイザー」の基本です。

「免疫療法アドバイザー」のみならずには、免疫療法の基礎知識はもちろん、ご自身の体験を踏まえ、珠光会の免疫治療を、がんでお悩みの方々にお伝えしていただくことをお願いしております。免疫療法とがんでお悩みの人をつなぐ架け橋、それが免疫療法アドバイザー

です」(蓮見先生)

珠光会は「免疫療法アドバイザー」の活動をサポートするため、次のようなプログラムを用意する予定です。

**テキストや資料の無償配布**

アドバイザー活動の補助ツールとして、①豊かな実手帳、②ハスミワクチン・ハンドブック、③「BSL48 珠光会 Clinic」パンフレットなどを差し上げます。

テキストは、徐々に充実させていく予定です。このようなものがあつたらいい……というご要望がありましたら、お申し出ください。ご意見を反映させていただきます。

**勉強会の実施**

免疫療法やがん治療に関する情報・知識を一層深めていただくため、勉強会を実施します。免疫の仕組みを中心に、「ハスミワクチン」や「HITV療法」などの免疫療法が「がん」に効果を発揮する理由などを、実例を踏まえて分かりやすく解説します。また、効果的な免疫療法の活用法など、実践的な知識も身に付けていただきたいと考えています。もちろん、入場無料・参加自由です。

この勉強会については詳細が決まり次第、本

誌上、Webサイト「免疫療法コンシェルジュ」などでお知らせします。

「免疫療法アドバイザー」は、現在は珠光会からお願いして就任していただいています。みなさまが自主的に手を挙げてくださることが理想です。もし可能であるなら、珠光会にお力をお貸しください。みなさまと共に「がんの苦痛のない未来」に向かって歩いていけるなら、私にとってそれ以上の幸福はありません」(蓮見先生)

人間という生き物が現在の繁栄を勝ち得たのは、他人の意思や考えに共感できる能力があったからに他なりません。みなさまの貴重な経験、思い、そして、知識などを誰かに伝え、それが相手に同化して、さらに誰かへと伝わっていく。そうした連鎖の中で、絶望にふさぐ誰かの肩を叩くことができたなら、みなさんの経験や知識は未来へつながる希望として、着々と受け継がれていくことでしょう。

言葉と同時に「ぬくもり」を伝える「免疫療法アドバイザー」は、必ずやがん撲滅の切り札になってくれるはずだ。

免疫療法アドバイザーからの message 3

歴史と知識を受け継ぎ、必要な人へ伝えていく

北海道 田中吾郎さん(仮名)

私は平成20年、喉に違和感を覚えたことから病院を受診。のちのセカンドオピニオンで、扁平上皮がん、と宣告されました。ショックでしたが、やることは決まっていました。実は私の母は先代の蓮見喜一郎先生とは肝胆相照らす仲。長年ハスミワクチンの協力医を務めていたのです。

ハスミワクチンの効果は知っていたので、すぐに賢一郎先生に指示を仰ぎました。そして、手術と放射線で病巣を処理し、ハスミワクチンで再発予防に励んだ結果、つい先日、通院していた北大耳鼻科の教授から「扁平上皮がんは10年を一つの区切りとしているので、再発の可能性は低い。今後は1年に1度程度の検診で良いのでは」という診断をいただいたのです。

珠光会は昨日今日できたクリニックではなく、とても歴史のある病院です。全国ではもちろん、この北海道にもがんで悩んでいる方はたくさんいらっしゃいます。そういう人たちに、私の体験や知識が役に立つのならとても嬉しいのです。

免疫療法アドバイザーからの message 4

みなさんに元気をお伝えする

京都府 石田要一さん(仮名)

私は肝臓がんの手術を受けました。同じ頃、親しい友人もがんになってしまい、どうにかしなければ……と思索していたところ、別の友人から蓮見賢一郎先生をご紹介いただいたのです。ハスミワクチンを使っていると、「とても調子がいい……」と感じます。何人かの知り合いに紹介しましたが、みなさん「体調が良くなった」と喜んでいきます。ちなみに、現在は自家ワクチンに併せ、経口用のワクチン「コルダ」を愛用しています。

私は学生時代は柔道部員として相当頑張りました。今でも時間があればトレーニングしています。そんな元気の源として、今後もハスミワクチンをみなさまにご紹介したい、と思っています。元気は健康に欠くべからざるものであると同時に、人生を楽しむうえでも基本ですからね。



浜松城  
元亀元年（1570年）、徳川家康が築城した名城。  
家康は29歳から45歳までの17年間、この城で過ごした。  
歴代の城主が幕府の要職に就くことが多かったため、「出世城」といわれている

## 知ることは“力”になる—— 浜松市で第1回『交流・勉強会』が開催

さる4月29日（祝）、静岡県浜松市の“浜松 ACT CITY 研修交流センター”において、第1回『交流・勉強会』が開催されました。当日の様様を、参加者の一人——太田圭一さん（仮名）の取材と併せてお届けします。

### ●知識と心が行き交う場所

静岡県西部に位置する浜松市は、県内最大の面積・人口を誇る政令都市——。現在放送中のNHK大河ドラマ「おんな城主直虎」所縁の地として、また、東海道の宿場町として数多くの歴史的足跡を有しています。同時に、ものづくりの街として有名であり、ヤマハ、スズキ、ホンダ、カワイなど錚々たる企業が本社を置く産業集積都市でもあるのです。

今回『交流・勉強会』が実施された会場は、「浜松市楽器博物館」の一角にあります。楽器産業で有名な浜松市は音楽活動も盛ん。1991年にスタートした、浜松国際ピアノコンクールは世界的にも評価が高く、今年、直木賞・本屋大賞を受賞した恩田陸さんの『蜜蜂と遠雷』は、このコンクールを舞台にしているといわれています。

晴天に恵まれた当日——。会場にお越しいただいた参加者は約20名。『交流・勉強会』は珠光会でも初めての試みであり、実はスタッフも「一人も来ていただけなかったらどうしよう……」と内心ドキドキしていたのですが、まずは「安心。みなさまの熱意に頭が下がると同時に、情報を伝える側の責任感がひしひしと募りました。「定刻になりましたので、『交流・勉強会』を始めさせていただきます」

進行役を務めるBSL48珠光会Clinicの渋谷大介事務長が開会を告げました。傍らの池田喜

和子看護師長と共に勉強会を仕切ります。

『交流・勉強会』の目的は、免疫療法を中心にがん治療についての正しい知識をみなさまへお届けすること、そして、がんでお悩みの方同士の交流の場となることです。

がんの治療は日進月歩——。俯瞰的には、相変わらず「手術」「抗がん剤」「放射線」が主流ですが、昨年登場したオプジーボ（免疫チェックポイント阻害剤）のように、科学的な進歩がさまざまな場所で結実していることも事実です。そうした最新情報を知ることが、がん治療に新しい選択肢を加えることに他なりません。

そして、人間の健康を司る鍵——「免疫」について学ぶことは、がん治療のみならず、「生活の質」を向上させるためにも不可欠であるはず。また、精神的疾患に有効な治療法として「集団療法（Group Psychotherapy）」があるように、同じ悩みを抱える人同士が語り合うことは、心の健康に大変良い影響を及ぼします。

ストレスを受けると、自律神経の乱れなどから免疫力が低下します。心の交流が作る癒し効果は病気になるためにも、立ち向かうためにも、とても大切な要素なのです。

### ●再びハスミワクチンを開始するケース

おおよそ1時間、渋谷事務長と池田看護師長は、免疫の基本システムから始まり、ハスミワ

クチンが免疫システムに作用する理由、ワクチンの使用方法についてのアドバイスなど、知識から実践に至るまで多彩なガイダンスを行いました。

参加者のみなさまも、お配りしたテキストや資料を熱心に見つめ、また、メモを取るなど真剣な面持ちで講習に臨んでいらっしゃいました。

そして、質疑応答——。講演会も含め、珠光会が静岡県地方を訪れるのが初めてだったこともあり、多くの人の手が挙がりました。なかには自主的に立ち上がり、自らの体験談を語ってくださった方もいらっしゃいました。太田圭一さん（仮名・76歳）も、そのうちの一人でした。

太田さんは32歳の頃、奥さまを急性骨髄性白血病で亡くされました。そんな経験から健康には人一倍気を付けていた太田さんが、体に異常を覚えたのは48歳のときでした。

「心当たりのない下痢症状がずっと続くし、とにかく体がだるいし……。妻のことがあったので不安でしたね」（太田さん）

何とかしなければ……と思索していたとき、知人からハスミワクチンの話を聞いたといいます。

「検査だけでも受けてみようと思ひ、珠光会診療所（旧）へ赴きました。

すると、とても親切に話しかけてくれた方がいたので。その人は蓮見喜一郎先生



会場となった「浜松 ACT CITY 研修交流センター」。同居する「浜松市楽器博物館」には、1300点余の世界の楽器が展示されている



会場内の風景



参加者の質問に答えるBSL-48 珠光会 Clinicの渋谷大介事務長と池田喜和子看護師長。会場の熱気を反映し、言葉にも力がこもる

から多くのことを学んでおり、私にいろいろなことを教えてくれました。

例えば、がんという病気は「突発的」には発症しない、ということ。最初の「芽」からある程度時間をかけて腫瘍になるわけですから、日常の健康管理がいかに大切かということですね（太田さん）

喜一郎先生から、がんについては「大丈夫ですよ」との診断をいただき、ほっと一安心の太田さんでしたが、体の不調が消えたわけではありません。

ならば、不調は体が病気に闘っている証拠。そんな場合は、体の状態を病気に闘いやすく整えることが肝心」という教えを実践しようと思いましたが、この当時から、日常の健康管理が半ば間休業——。ハスミワクチンを用いながら体調の回復に専念したのでした。

「まず体が軽くなりました。食欲も出てきて、何よりも気力が充実してくるので、健康になっていくのだな……と実感できることが、ハスミワクチンのすごいところですね」（太田さん）

（太田さん）

76歳の現在もパワフルに活動を続ける太田さんですが、機会があればもう一度ハスミワクチンを使ってみたいという思いから、今回の『交流・勉強会』に参加したといいます。

太田さんのように、かつてハスミワクチンの治療を受けていた方が、病気の予防や健康増進、免疫系の若返りのために使用を再開するケースは少なくありません。健康長寿は誰しも願っていますが、その「鍵」の一端を免疫が握っている以上、ハスミワクチンが（健康長寿への）扉を開く可能性は限りなく高いでしょう。万能型がハスミワクチン——ハスミワクチンは、使い方のバリエーションもそれだけ豊富なのです。

浜松の『交流・勉強会』は、質疑応答で高揚した気分を曳きながら終了しました。各々の胸に再会の思いが過ったことは、いうまでもありません。

『交流・勉強会』は、今後も全国で開催する予定です。実施予定は本誌、Webサイト『免疫療法コンシェルジュ』などで告知しますが、もしお住まいの地域で開催してほしいというご要望がありましたら、BSL48 珠光会 Clinic『免疫療法コンシェルジュ』（メール）までお知らせください。ご要望にお応えできるよう、万全の準備をいたします。

読者のみなさまと、いずれかの地でお目にかかれることを、心から楽しみにしております。

小林 裕美子

マンガ家/イラストレーター  
東京造形大学・デザイン学科卒業。イラストレーターとして、実用書や児童書、雑誌、WEB媒体、新聞等に挿絵やマンガを描いている。『美大デビュー』（ポプラ社）、『もち・ぼち』（徳間書店）、『親を、どうする?』（実業之日本社）、『私、産めるのかな?』（河出書房新社）、『親が、倒れた! 桜井さんちの場合』（新潮社）、『産まなくてもいいですか?』（幻冬舎）等、著書多数。



ほのぼのJiJi・BaBa  
松 & 梅



免疫力を高め、健康長寿を目指す

# 食養生のすすめ

前号(39号)よりスタートした新レシピ・シリーズ。今回のテーマは「食養生」です。料理制作・監修にあたる植木もも子先生は、管理栄養士のみならず国際中醫師、国際中医薬膳管理師など数々の資格を有し、「現代栄養学」「中医学」両面から「食」の力を極め続けています。植木先生に新連載の意気込みなどをお伺いしました。

## 現代栄養学とは？ 栄養学の変遷

植木先生は管理栄養士として、現代栄養学を推進すると同時に、中国伝統医学(中医学)にも精通



管理栄養士、国際中醫師、国際中医薬膳管理師

### 植木 もも子 先生

にアプローチしたものが「現代栄養学」。また、原典ともいえるべき黄帝内経(紀元前202〜後8年)の作とされる通り、長大な歴史に裏付けられた、経験をもとにアプローチしたものが「中医学」といえるでしょう。紀元前ですか。それはすごいですね。

植木「本当初……。近代栄養学の父といわれるドイツの栄養学者・カール・フォン・フォイトが活躍したのが19世紀後半です。ちなみに、日本人の年齢別、性別、労作別の「栄養所要量」が定められたのは1949年。現在でもおなじみの「日本食品標準成分表」が発表されたのは、翌年の1950年です」

——栄養学というと、3大栄養素を思い浮かべてしまいます。

植木「たんぱく質、脂質、炭水化物ですね。これらは生命活動に必要なエネルギー(カロリー)に変換される物質ですが、栄養学は、当初こうした食品中の栄養素の分析や含有量、すなわち、カロリー計算に終始していました。しかし、今では栄養素を単体で捉えることより、それらが体の中でどのように活用されているのかという、生化学的な側面が中心になっています。そこで注目を浴びたのが代謝<sup>\*</sup>を補助するビタ

——簡単に説明してください。

植木「私たちの健康は、ホメオスタシス(恒常性維持機能)、免疫機構、など、さまざまな生命システムによって維持されています。これらの生命システムに『食べる』という見地から、科学的

「獣医」と続きます。

——薬膳も中医学の一種なのですか？

植木「諸説ありますが、どつやら日本で作られた言葉が中国に逆輸入されたようですね。ちなみに、「医食同源」も日本で作られたもの。オリジナルは「薬食同源」です」

——今回のレシピにも「薬食同源」が反映されているわけですね。

植木「もちろんです。現代栄養学と中医学の、いいところ取り、ですよ。

例えば中医学には滋養強壮に効くとされる「冬虫夏草」という薬材があります。このキノコについては世界中の研究施設で分析が進んでおり、多くの有用物質が発見されているのです。科学的なフィルターを経ることで、中医学の叡智が現代栄養学に応用できるようになったわけです。

今回のレシピは、身近な食材で免疫力を高め、健康長寿を目指す、ことを目的としています。なかでも意識したのは野菜の力。野菜は動くことができないので、気候の変化などの外的要因から身を守るために、さまざまな化学物質を分泌しています。ポリフェノール<sup>\*\*</sup>が良い例ですが、それら体に良い物質を、効率よく摂れるよう工夫しました。「食べる」ことは、生命を維持するうえで、楽しみという意味でもとても大切です。私たちの細胞は日々の食事から出来上がっているといことを忘れずに——。私のレシピがみなさまの健康に少しでもお役に立てれば、それ以上の幸福はありませぬ」

## Special Information

### 決定 植木もも子先生が『健康講座』で講演

東京・紀尾井町の「紀尾井フォーラム」で開催される第15回『健康講座』で、植木先生が講演します。現代栄養学と中医学を横断する豊富な知識を駆使し、免疫力を高めて、健康長寿、を目指す食生活について、わかりやすく解説します。

日々の健康は食生活から——。みなさまのお越しを心からお待ちしております。

■日時：9月30日(土) 午後2時～3時30分(予定)  
※開場は午後1時30分

●入場無料

●お申し込みは電話、またはメールで。紀尾井フォーラム、BSL-48 珠光会 Clinic の受付でもお受けしております。電話は03(3556)1950、メールはWebサイト『免疫療法コンシェルジュ』からお入りください。

※3 ポリフェノール：体内で強い抗酸化作用を発揮する栄養素。お茶のカテキン、そばのルチン、大豆のイソフラボン、コーヒーのクロロゲン酸などはポリフェノールの一種

※1 代謝：生体内で生じるすべての化学変化とエネルギー変換のこと。栄養素が合成・分解されていく過程を指す  
※2 陰陽：この世に存在するものを組み分けする方法。陰に分けられるのは地・女・右・裏など。陽は天・男・表・出など。また、陰には「休息、栄養」、陽には「活動、消耗」などの意味がある

### Information 紀尾井フォーラムで『交流・勉強会』を開催します

本誌6頁・15頁でご紹介したように浜松、札幌で開催してまいりました『交流・勉強会』を、東京でも開催する運びとなりました。新しくスタートを切ったBSL-48 珠光会 Clinicの事務長渋谷大介氏、同看護師長池田喜和子氏を進行役に、ハスミワクチンの仕組みから実践に至るまでの知識を徹底的に分かりやすく学んでいきます。また、日頃みなさまが感じている疑問にも丁寧に答えたいと思いますので、もし、みなさまの周囲にがんでお悩みの方がいらっしゃいましたら、お誘いあわせの上ご来場いただければ幸いです。スタッフ一同みなさまの思いを共有し、みなさまの実情に即した知識を選び抜き、共に学びながら前進したいと強く念じております。

みなさまのお越しを心よりお待ちしております。

■ 日時：10月28日(土)  
午後1時30分～午後3時 ※開場は午後1時

■ 会場：紀尾井フォーラム  
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町4-1  
ニューオータニガーデンコート1F  
TEL.03-5213-6886 / FAX03-6685-5250

- ・地下鉄丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」下車D.紀尾井町口
- ・地下鉄半蔵門線「永田町駅」下車7番出口
- ・地下鉄有楽町線「麹町駅」下車2番出口
- ・地下鉄丸の内線・南北線・JR「四ッ谷駅」下車



■ 入場無料 ★ご来場ご希望の方は、直接会場へお越しください



暑くて汗をよくかく人は、水分補給に併せ、汗とともに失う「気」を補うことが大切です。夏が旬のスズキは「気」を補います。トマトは胃の動きを促し、ローズマリーやハーブの香りは「気」のめぐりを助けてくれます。

### スズキのレモン蒸し ロメインレタスサラダ添え

- 材料(2人分)**
- |           |       |              |        |
|-----------|-------|--------------|--------|
| スズキ       | 2切れ   | 玉ねぎ(すりおろし)   | 大さじ1   |
| 酒         | 大さじ1  | 酢(またはレモン汁)   | 大さじ1   |
| 塩、こしょう    | 少々    | 塩            | 小さじ1/3 |
| トマト(大)    | 1個    | 黒こしょう(ひきたて)  | 少々     |
| 玉ねぎ       | 1/2個  | オリーブ油        |        |
| レモン       | 1個    | (またはオメガ3オイル) | 大さじ2   |
| ローズマリー(葉) | 2枝    | フレンチマスタード    | 大さじ1   |
| バジル(葉)    | 4枚    |              |        |
| 白ワイン      | 大さじ1強 |              |        |
| ロメインレタス   | 適量    |              |        |
- 作り方**
- スズキは洗って水気をふき、Aをふっておく。トマトは横の輪切りを4枚作る。レモンは皮をむき、輪切りにする。玉ねぎは横に1cm幅に切る。
  - フライパンに玉ねぎ、トマトを敷き、スズキを載せ、ローズマリー、バジル、レモンを載せて、白ワインを回しかけ、ふたをして強火にかける。沸騰したら弱火にして3分ほど蒸して火を止めておく。
  - ロメインレタスは一口大に切り、洗って水気を切る。Bを混ぜ、オリーブ油を加えてドレッシングを作り、ロメインレタスと和えておく。
  - 皿に2を盛り、蒸し汁にフレンチマスタードを混ぜて、スズキにかける。3を添える。

### Topics

#### 蓮見先生が米国で表彰されました

本年5月、蓮見賢一郎先生が米国のトーマス・ジェファーソン大学から表彰されました。同大学は、フィラデルフィア市中心部にある全米屈指の医療系私立大学。1000名を超える学生が在籍し、日々高度な医療プログラムの習得に励んでいます。その医学部(シドニー・キンメル・メディカル・カレッジ)から、蓮見教授(Hasumi Professorship)への貢献と、20年にわたる腫瘍学研究支援への感謝として、楯が授与されました。医学部内の蓮見研究室(Kenichiro Hasumi, MD Lab)から、がん治療を一変させる成果が届く日も近いかもしれません。



表彰の楯を掲げる蓮見先生(中央)、左は元トーマス・ジェファーソン大学学長のDr.osepe S. Gonnella、右は現学長のDr.Mark L. Tykocinski



医学部に設置された蓮見研究室のプレート

Report

## 札幌で『交流・勉強会』が行われました

### ●活発な質疑応答、意見交換

さる6月10日(土)、札幌市の北海道立道民活動センター「かでの2.7」において、今年2回目となる『交流・勉強会』が開催されました。

進行役を務めたのは、第1回の浜松市(6頁)と同じBSL-48 珠光会 Clinicの渋谷大介事務長と池田喜和子看護師長——。お二人は『交流・勉強会』に熱心に取り組んでおり、前回からさらにバージョンアップしたスライドなど、随所に工夫の跡が見られる会となりました。

この『交流・勉強会』の長所は質疑応答、意見交換が活発な点です。治療についての質問に答える池田看護師長の傍らから、参加者が別の角度からの情報を補足していく——。そんな知識の応酬が化学反応を引き起こし、会全体を豊かな“場”として形成していくさまは、そこにいるだけでとても有意義な気分にならせてくれます。

### ●希望を失わなければ、健康を取り戻せる

会を締めくくったのは、参加者から推されて立ち上がった岸本良一さん(仮名)です。岸本さんは2010年、腎臓がんが肝臓に転移し、医師から「この状態から良くなった人は、世界に一人もいない」と告げられました。余命は数か月。しかし、当時札幌で開催された蓮見先生の講演をきっかけに、ICVS東京クリニック\*1を受診。HITV療法とトモセラピー\*2の併用で、2012年にはすべての病巣を消滅させたという経験の持ち主です。

「実は最近再発が発見されました。現在はHITV療法に新しい治療法を加えるべく、蓮見先生と一緒に戦略を練っています。がんはしづといですが、科学も着実に進歩しています。希望さえなくさなければ、必ず健康を取り戻せるでしょう」

語り終えた岸本さんに大きな拍手が送られ、札幌『交流・勉強会』は熱い充実感に包まれながら閉会しました。誓いは、来年再び健康の喜びを分かち合うこと。スタッフはその日を楽しみにしながら、参加者のみなさまの背中を見送りました。



北海道立道民活動センター「かでの2.7」



▲▼会場風景



\*1: ICVS 東京クリニック: 次世代型免疫療法「HITV療法」の治療施設。HITV療法は第Ⅳ期のがん治療に効力を発揮する  
〒102-8578 千代田区紀尾井町4-1 ホテルニューオータニ新紀尾井町ビル4F 電話: 03-3222-0551

\*2: トモセラピー: 強度変調放射線治療(IMRT)に分類される治療方法。細い放射線のビームを組み合わせ、治療したい部位に沿った線量分布を描くことができる

Information

## 9月9日(土)青森で「蓮見先生 講演会」を開催します

きたる9月9日(土)、青森県観光物産館アスパムにおいて、蓮見賢一郎先生の講演会を開催します。益々発展する免疫療法の最新情報を中心に、がん治療の最前線をわかりやすく解説。講演会終了後には、蓮見先生を囲んでの“相談会”も実施する予定です。

探していた“答え”が見つかる可能性満載。ご家族、お友達をお誘いの上、ぜひお越しください。

■日時: 9月9日(土)  
午後1時~午後2時30分(予定) ※開場は午後12時30分

■会場: 青森県観光物産館アスパム 6階 八甲田  
〒030-0803 青森県青森市安方一丁目1番40号 TEL: 017-735-5311  
・JR青森駅東口から徒歩約8分

■入場無料



米国法人 蓮見国際研究財団理事長  
蓮見賢一郎先生

Information

## 10月14日(土)大阪で「交流・勉強会」を開催します

きたる10月14日(土)、大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)において、「交流・勉強会」を開催いたします。がんはなぜ発生するのか、がんの発生・治療に免疫力はどうかかわっているのか……等々、免疫療法の基本から応用をわかりやすく解説すると同時に、みなさまとの交流を通じ“実践的な治療法”を学んでいきます。BSL-48 珠光会 Clinicの看護師も参加いたしますので、日頃の疑問・質問にもお答えします。

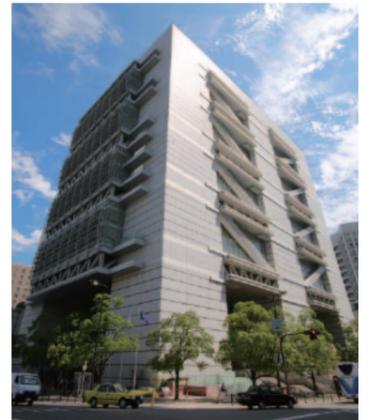
がん治療の新しい可能性を探る機会——。ご家族・お友達をお誘いの上、ぜひご参加ください。

■日時: 10月14日(土)  
午後1時~午後2時30分(予定) ※開場は午後12時30分

■会場: 大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪) 801・802号室  
〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51  
TEL: 06-4803-5555

- ・京阪電車中之島線「中之島(大阪国際会議場)駅」(2番出口)すぐ
- ・JR大阪環状線「福島駅」から徒歩約15分
- ・JR東西線「新福島駅」(3番出口)から徒歩約10分

■入場無料



グランキューブ大阪

Recruitment

## 「免疫療法アドバイザー」募集のお知らせ

本誌第1特集(2頁)でご紹介した通り、珠光会は「免疫療法アドバイザー」を募集しています。ご興味のある方は、事務局までお問い合わせください。

### ■応募要項

- ①「免疫療法アドバイザー」へは、珠光会の医療に関心のある方であれば、どなたでも応募していただけます。
- ②「免疫療法アドバイザー」になっていただける方は、メールで「免疫療法アドバイザー事務局」へお申し込みください。
- ③事務局へご登録後、サポート用のテキストや資料などをお送りします。

連絡先

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町4-1 新紀尾井町ビル3F  
医療法人社団 珠光会 免疫療法アドバイザー事務局 担当: 細谷  
Mail: adviser@shukokai.org



## 第2特集

# 『BSL-48 珠光会 Clinic』が開院

2017年6月、BSL-48Clinic から新しく生まれ変わった『BSL-48 珠光会 Clinic』が始動しました。BSL-48 珠光会 Clinic の院長小林秀紀先生、事務長渋谷大介氏、看護師長池田喜和子氏に、新生 BSL-48 珠光会 Clinic についての思いをお聞きました。

### 「ハスミワクチンの歴史は阿佐谷から始まった」

故蓮見喜一郎博士が「がんワクチン」の研究に着手したのは1931年。喜一郎博士の叡智の結晶——ハスミワクチンの臨床施設として、杉並区阿佐谷に杉並病院（旧珠光会診療所の前身）が開設したのは、1937年のことでした。今年6月、東京・紀尾井町のBSL-48Clinicは、「ハスミワクチン生誕の地である阿佐ヶ谷へ移転」。『BSL-48 珠光会 Clinic』と名称変更し、新たなスタートを切ることになったのです。「今回の移転には、主に二つの理由があります」小林秀紀院長は、そう口火を切りました。「現在、珠光会で施術している免疫療法にはハスミワクチンをはじめ、NK細胞療法※1、LAK療法※2、γδ（ガンマ・デルタ）T細胞療法※3などがあります」NK細胞療法やLAK療法、γδT細胞療法は免疫療法としては基本的な方法。ハスミワクチンと組み合わせることで、相乗的な効果アップを狙うことができます。「これらの治療に用いる細胞は、珠光会ク

※1 NK細胞療法：NK細胞とは、人間が生まれながらに持っている免疫（自然免疫）に存在する細胞。このNK細胞を活性化させ、異物を排除しようというのがNK細胞療法  
※2 LAK療法：血液からリンパ球を分離し、免疫活性物質を使って培養。それを増殖させて体内へ戻すという方法。免疫療法の基本というべき療法



BSL-48 珠光会 Clinic院長  
小林 秀紀先生

ループの「細胞療法センター」東京リサーチセンターで培養・管理されています。この両施設と、基礎研究と開発の拠点である「蓮見癌研究所」は旧珠光会診療所内にあるのですが、今回BSL-48 珠光会 Clinic を同じ建物内に組み込むことにより、研究開発から臨床までの距離をほとんどゼロにまで集約できる——これが移転の一つ目の理由です」（小林院長）  
免疫細胞の研究・開発→生産・管理→臨床のラインを「一カ所にまとめることで、例えば臨床中に生じた改良点をダイレクトに研

究・開発部門に伝達、そして、生産・管理部門で培養した「免疫細胞」を速やかに臨床部門へ供給するなど、迅速な対応が可能となったわけです。いうまでもなく、免疫療法の効果は治療に用いられる細胞の質に左右されます。これらの体制により、BSL-48 珠光会 Clinic では常に患者様へ「新鮮」な治療を提供できるように became したのです。

### 「情報交換と交流の場としての役割」

「免疫療法の基本は、ワクチンなどによって免疫力を上げ、体内から異物を排除する」ということですが、この免疫力の向上には治療のみならず「生活のあり方」全体が関係しているのです」小林院長が説明する通り、食生活やストレスなど、免疫活性に影響を及ぼす要素は、日常生活のなかにたくさんあります。実は最近、そうした「免疫と日常生活の関係性」を再検証してみようという動きがあるのです。例えば笑い——。笑いと免疫の関係性は、かねてより指摘されていますが、大阪府は本年1月、がん患者の免疫細胞が笑いで活

性化するかどうかを実証する研究を始める、と発表しました。大阪府立病院機構「大阪国際がんセンター」で、4か月間継続的に行われる実験であり、松井一郎府知事は「継続的な笑いが、がん医療に及ぼす影響を見る国内初の実証実験だと聞いている」と述べています。「生活のあり方が免疫力、ひいてはがん治療そのものに関係しているのであれば、我々医療スタッフは治療のみならず、患者様の生活全体を見守る必要があるでしょう。BSL-48 珠光会 Clinic を、そうした患者様の全人的なサポートの場としたい——これが移転理由の二つ目です」（小林院長）「ハスミワクチンを長年使っていたらいてる患者様にお会いすると、阿佐谷の旧珠光会診療所の様子を懐かしそうにお話ししてくださいることが多々あります」そう語ってくれたのは、BSL-48 珠光会 Clinic 事務長の渋谷大介氏です。「みなさん異口同音におっしゃるのが、居心地の良さ——。診療所には広い待合室があったのですが、そこで患者様同士が近況を報告し合ったり、治療に関して情報を交換したり……。そういう「場」があったおかげで、とても癒されたと話してください

※3 γδ（ガンマ・デルタ）T細胞療法：親和性が高く、副作用の危険性が少ない治療法。がんワクチンや抗がん剤治療と併用することで、抗腫瘍効果やQOLの改善が期待できる



BSL-48珠光会 Clinic事務長  
澁谷 大介氏

ます」

2008年、順天堂大学医学部で産声を上げた「がん哲学外来」は、医学的な治療だけでなく、患者さんや家族の心のケアまでを包括的な治療として対応していこう——という動き。具体的には「メディカル・カフェ」という患者さん同士、あるいは患者さんと医療関係者との「対話の場」作りとして実践されてきましたが、旧珠光会診療所は、それらに先んじて同様の場を設けていたわけです。

「今回の移転により、交通の便が多少悪くなってしまいましたので、その点は大変申し訳ないと思っています。みなさまが苦勞して足を運んでくださった分、ゆっくり休んでいただけるよう、また、治療に関する情報交換など、みなさまのコミュニケー

症例報告などの勉強会はこまめに行っています。

食事や運動などの生活処方から治療まで、患者様とお話しすることは多岐にわたります。気がつくとも30分以上話し込んでいる場合もありますね」

大病院では定番となった三分・五分診療を思えば、何と潤沢な時間なのだろう——と、(記者は) 思ってしまう。しかし、裏を返せば「がん」が、それほど真摯に向き合えば対応できぬほど複雑な病気だということなのでしょう。

「私はBSL-48珠光会Clinicを、そこに行きたいと思う場所」にしたいと考えていま

シヨンに役立てていただけるように環境を整えたいと考えています。もしご意見などありましたら、お気軽にスタッフまでお伝えください。みなさまに最良の受診環境をご提供することが、私たちの仕事なのでから」(渋谷事務長)

新しい医療の  
モデルケース

患者様の生活全体をサポートする——。そうした全人的な医療を実践するためには、スタッフ側にもかなりの努力が必要なのではないでしょうか？

「患者様をお手伝いするのは当たり前ですので、特に努力がいると感じたことはありません」

答えてくれたのは、看護師長の池田喜和子氏です。

「患者様はさまざまな疑問や悩みを抱えています。他の病院で術後の治療を並行して行っている人もいらっしゃるの、それらの病院で受けた処置に関して質問を受ける場合もあります。もちろん、セカンドオピニオンは医師に尋ねるしかないのでありますが、私たちもできるだけお役に立ちたいので、

す。池田看護師長も申しましたが、患者様のお悩みは多種多様です。それらを一緒になって解決し、共に健康な未来へ向かって進む……。そんな生きる希望に満ちた「場」こそ、今後求められる医療施設の在り方なのではないでしょうか」(渋谷事務長)

「私たち珠光会は、日本における免疫療法のパイオニアです。延べ15万人に愛用されているハスミワクチン、第Ⅳ期のがん治療に効力を発揮するHITV療法——。免疫療法を標榜する医療施設は数多くありますが、確固たる歴史と最先端技術を有するグループは珠光会だけではないでしょうか。

私はBSL-48珠光会Clinicで、ハスミワ



診察室



処置室

クチンをベースにしたがん予防・治療もとより、免疫力を利用した健康長寿まで実践したいと考えています。先ほど渋谷事務長と池田看護師長が申し上げたように、患者様の悩みや願いに共感する感性さえなくさなければ、それも不可能なことではないでしょう」(小林院長)

超高齢社会を迎え、誰もにとって病気のリスクを減らすことが必須となった日本。BSL-48珠光会Clinicが、今後必要不可欠な医療、すなわち「生きる力が生まれる医療」のモデルケースになってくれるに違いありません。



ゆったりとした待合室



蓮見喜一郎先生のメモリアルコーナー。  
貴重な品が展示されている



阿 佐 ヶ 谷

ぶらり散歩マップ

阿佐ヶ谷は川端康成、太宰治などの有名作家が暮らしていたことから“阿佐ヶ谷文士村”と呼ばれた時代もありました。意外と豊富な阿佐ヶ谷の見どころを紹介します。診察の帰りに、ぶらりと立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

● 中杉通り

杉並区役所から中村橋まで南北に延びる通り。途中の世尊院は不動明王を本尊とする名刹。室町時代の作とされる木造聖観世音菩薩立像が観音堂に納められている。ジャズの演奏や野菜の朝市のイベントも行われている。



● Aさんの庭

Aさんとは公園を訪れたみなさま、という意味。ジブリの宮崎駿監督が著作で紹介したことから話題になった。可愛らしい建物とのどかな自然が、なんとなく懐かしい気分に誘ってくれる。  
※杉並区阿佐谷北 5-45-13



● 阿佐ヶ谷神明宮

鎌倉時代には建立されていたという歴史ある神社。江戸時代の『江戸名所図会』にも紹介されていたという。「平成の大改修」を終えた真新しい境内を散策すれば、清々しい気分になれるに違いない。  
※杉並区阿佐谷北 1-25-5



● BSL-48 珠光会 Clinic

※旧珠光会診療所の建物です



● 阿佐ヶ谷アニメストリート

杉並区はアニメの制作スタジオなどが点在する“聖地”。そんな縁からできたのが、阿佐ヶ谷駅から高円寺駅に向かう高架下に広がる“阿佐ヶ谷アニメストリート”。コスプレの体験もできる。  
※杉並区阿佐谷南 2-40-1



● 馬橋稲荷神社

鎌倉時代に創建された神社。見どころは鳥居——。左右の柱に龍が彫られた“双竜鳥居”と呼ばれ、東京に3つしかないことから、東京三鳥居の一つに上げられている。由緒正しき昇り龍に触れると、仕事運がアップするそうだ。  
※杉並区阿佐谷南 2-4-4



● 阿佐谷

パールセンター商店街

阿佐ヶ谷駅南口から青梅街道にかけて、約700メートル続く商店街。60年以上の歴史を誇る「阿佐ヶ谷七夕まつり」は、“日本三大七夕祭り”に数えられるほどの賑わいだ。



● ラピユタ阿佐ヶ谷

個性的な建物内には映画館や小劇場、フレンチレストランなどがある。映画館ラピユタではむかし懐かしい作品、ユニークな実験作など多彩なラインナップが鑑賞できる。  
※杉並区阿佐谷北 2-12-21

